

■九州朝日放送番組審議会議事概要（10月分）

第587回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成28年10月17日(月) 午後3時30分～5時
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 8名 欠席委員 なし</p> <p><b>(出席委員)</b> 宮田克彦委員長、古宮洋二副委員長、井手雅春委員、鶴 利絵委員、三好京子委員、野田幸之輔委員、池田勝委員、安恒万記委員</p> <p><b>(放送事業者側出席者名)</b> 代表取締役社長 和氣 靖 専務取締役編成制作局長 半田俊彦 取締役ラジオ局長 清水 透 報道局長 松延健次 テレビ制作部長 松尾恵美 テレビ制作部 山田利宣 水と緑のキャンペーン事務局長 坂井 剛 視聴者・広報室長兼番審事務局長 久芳康治、事務局員 古賀香織、松田泰久</p>
議 題	<p>1. テレビ番組 「第20回KBC水と緑のキャンペーン 水と緑の物語～未来に残したいタカラモノ～」 ＜放送日＞9月17日(土) 9時30分～11時45分(第1部) 12時00分～17時30分(第2部)</p> <p>2. 番組種別の公表報告(平成28年4月～9月分)</p> <p>3. 平成28年10・11月ラジオ・テレビ番組編成状況</p> <p>4. 平成28年9月視聴者・聴取者応答状況の報告</p>
議事の概要	<p>◎委員の意見(概要)</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境に対する20年間の息の長い取り組みに敬意を表す。</li> <li>○番組全体のテーマ「あの時時いた種」は一貫性があり、分かり易かった。</li> <li>○長時間だが飽きさせないメリハリのある作りで見応えがあった。バラエティでも教育でもないユニークな番組。</li> <li>○「柳川掘割物語」は資料映像や再現映像、スタジオジブリの映画を上手く用い、過去の掘割の汚染と復活の経緯をわかりやすく紹介していた。</li> <li>○海中を浮遊するマイクロプラスチックの紹介は衝撃的だった。</li> <li>○福岡市の中長期の都市計画を紹介する「福岡未来予想図」は高島市長と宮本アナウンサーのかけ合いも面白く、テロップで専門的な用語を解説するなど丁寧で良かった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○20年前、番組を企画した経緯を知りたい。</li> <li>○「福岡未来予想図」は、福岡市の広報のようで、もっと検証性が必要だったのでは。</li> <li>○福岡市は博多湾の埋め立てにより発展してきており、モラルとしての博多湾のゴミ問題もあるが、埋め立てを含む、より持続可能な都市計画という点でも紹介してほしい。</li> <li>○唐津沖の松島について、交通アクセスの情報がもう少し欲しかった。島全体を俯瞰する、美しい映像が出てきたがドローンで撮影したのか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○20年前、これからは「環境」ということで営業部門から発案された番組だった。これまで反省の連続だったが、地域からの発信が大分出来たと思う。</li> <li>○熊本地震のため、今回のキャンペーンは通常より早目に開始した。キャンペーンの募金は熊本の被災地支援を目的として、一千万円に近い額が寄せられている。</li> <li>○今回は番組ごとに出された企画を集めたものでなく、オール水と緑、オール制作部で取り組んだ。普段より大変ではあったが、有意義だった。</li> <li>○ドローンは効果的な撮影技術だが、規制もあり、今回は離島の松島で使用した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p> <p>その他 「番組種別の公表報告」(平成28年4月～平成28年9月)をおこなった。</p>